

Discover Chiba

千葉が誇る

日本一



千葉県PRマスコット
キャラクター デーバくん
千葉県許諾第A3-45



第9回

大賀ハス

《今回の日本一》

・世界最古の花

(最も古い時代の種子から開花した花)





2000年の眠りから覚めた古代花

「大賀ハス」は世界で最古の花！

1951年(昭和26年)、千葉市検見川の泥炭層[※]から発掘された古い蓮の実を発芽させ、大きく成長した株の1つが開花したのは、発掘の翌年、1952年(昭和27年)7月のことでした。この一大ニュースは国内外に報道され、同年11月にはアメリカのニュース雑誌「LIFE(ライフ)」にも“世界最古の花・生命の復活”と大きく掲載されました。このハスは、実の発掘に情熱を傾けた大賀一郎博士にちなんで「大賀ハス」と命名され、シカゴ大学原子核研究所での年代測定検査の結果、2000年前以前のハスの実だと推定され、いよいよ「大賀ハス」の名前が世界中に知られるようになりました。

今では、その実や蓮根によって、国内はもとより遠く海外を含む150カ所以上に植え込まれ、友好と平和の使者として広く人々に愛されている「大賀ハス」。ピンク色の太輪の花を咲かせる古代ハスは、1954年(昭和29年)に千葉県の天然記念物「検見川の大賀蓮」と指定され、1993年(平成5年)には、千葉市が政令指定都市に移行したことを記念して「市の花」にも制定されました。2012年(平成24年)には、初開花から60年目を迎え、今なお、古代のロマンを秘めた優美な花ハスとして現代人の心を魅了し続けています。

※泥炭層(でいたんそう)：植物遺体を多く含む粘土・砂などで構成される遺物を含んだ地層のこと。

大賀博士の古代ハス採集への情熱が人々を動かし 地域ぐるみの発掘作業によって実が発見されました。

古代のハスの実の生命を蘇らせることに夢を抱いていた理学博士の大賀一郎氏。花見川下流の湿地帯から丸木舟^{かたふね}とハスの果托^{かた}が採掘されたと知り「果托が出たのならハスの実も発掘できるに違いない」と1950年頃、丸木舟の出土地・検見川の東京大学農学部厚生農場(現・東京大学総合運動場)を訪れました。博士の学問への情熱に心動かされた千葉県の関係者や研究者たちは、地域住民にも協力を仰ぎ、1951年(昭和26年)3月3日から大賀博士とともに泥炭層の中の発掘作業を決行。掘り出した土をふるいにかけて実を探す地道な作業が続いた3月30日の夕方、手伝いに来ていた市立第七中学校(現・花園中学校)の女子生徒がついにハスの実1粒を発見しました。さらに7日後にも2粒がふるい^{みしょうなえ}に出され、大賀博士によって発芽処理が行われましたが、最初に発見された実生苗^{みしょうなえ}だけが立葉8枚の株に大きく育ちました。発掘から1年後の1952年(昭和27年)に大きくなった根を掘り上げ、東京大学園芸試験所(当時)、千葉市千葉公園内弁天池(綿打池の一角)、そして県農業試験場の3カ所に分根・栽培され、現在に至っています。大賀博士の古代ハスへの熱い想いは、千葉県が誇る先進の農業研究技術と大賀ハス栽培の実績とノウハウによって、現代に継承されています。



▲最初に出土された丸木舟



▲当時の発掘風景



▲発掘記念碑
(東京大学総合運動場内)



【大賀一郎博士】

東京大学の指導教授である藤井健次郎先生より「ハスの受精現象」というテーマを与えられたことがきっかけとなり、古蓮、ハスの開花音、ハス糸など、ハスに関する幅広い研究を続けてきた。大賀ハスを発見したことにより「ハス博士」として広く知られるようになる。1883年(明治16年)～1965年(昭和40年)享年82歳。岡山県生まれ。

大賀ハスは、千葉市民が、そして千葉県民が世界に誇れる花です。



千葉市都市局公園緑地部
中央・稲毛公園緑地事務所
所長 斉藤 久芳さん

大賀ハスは、古代ハスをどうにかして発掘し、開花させてみたいという大賀先生の執念が行政や住民、建設関係者、さらには子供たちの心まで動かして、みんなの力がひとつになって発見に繋がりと、とうとう開花に結びついたという点で、私たち千葉市民にとって、とても貴重な存在だと思います。

また、2000年の時を超えて、その当時のハスの種子が現代に花開いたという生命の神秘性や古代植物へのロマンもまた秘められていますよね。そういった意味でも、千葉市民が、ひいては千葉県民が世界に誇れる「大賀ハス」をもっと



▲4日間だけの命の大賀ハス。千葉公園の弁天池では、蕾から開花、そして終焉を迎える全段階の花の形が眺められます。

誇りに感じて欲しいと思います。大賀先生の指導で千葉公園の弁天池に植え付けられた大賀ハスは今年、60年目の開花の季節を迎えました。

2008年から毎年「大賀ハスを観る会」を開催してきましたが、実際の栽培経験が実践的なノウハウとして蓄積され、2009年には239本だった1日の最大花数が2012年には3倍以上の765本に増えているのですよ。大賀ハス栽培の技術を学ぼうと、各地から見学に訪れる方々もおります。今年もさらに美しい花が咲き誇りますので、どうぞ開花の時期にいらしてください。

大賀ハスの純粋な種を引き継ぐために

大賀ハスは、2000年前の古代ハス本来の純粋な系統を守ってこそ価値があります。初開花から60周年の昨年(平成24年)、千葉公園では以前から系統保存を行っている東京大学から純粋な株を譲り受け、専門家の指導のもとで蓮根の植え付け作業を行いました。これからは交雑した種子によって繁殖しないよう、花後の果托を確実に刈り取り、蓮根による栄養繁殖*で純粋な大賀ハスの栽培と管理に努めていく計画です。

※栄養繁殖：胚や種子を経由せず、根・茎・葉などの栄養器官から次世代の植物を繁殖させること。



▲2012年4月に行われた蓮根の植え付け作業

ハスの花の4日間

毎年6月下旬から7月上旬が開花の最盛期を迎える大賀ハス。大きさ15cm～28cm前後の紅色系の花色で、4日間だけ咲き誇ります。



1日目

早朝の4時～5時頃から花弁が開き始め、とっくり型に開いた後、8時頃には閉じ始めます。雄しべは、まだ花托に密着しています。



2日目

深夜1時頃から開き始め、朝7時から9時頃に全開します。花の形が最も美しくなり、約が開いて香りが強まり、花托は黄色みを帯びます。



3日目

深夜1時頃から開き始め、朝の9時～10時頃に全開。花径が最大に広がります。花はやや色褪せ、昼には閉じ始め、半開状態で終わります。



4日目

午前8時頃までに全開になり花弁が徐々に散り始め、午後3時過ぎには完全に散ります。花の退色が進み、花托の上部は緑が濃くなります。

大賀ハスの仲間

★舞妃蓮(まいひれん)



▲千葉市内の「みなと公園」にて2012年撮影

1960年(昭和35年)に皇太子ご夫妻(現・天皇ご夫妻)が渡米した際、日系人の小林一郎氏からアメリカ黄蓮の実を託され、帰国後、大賀博士によって発芽と育成が行われました。その2年後に開花したこの蓮は皇太子殿下にちなんで「王子蓮」(おうじばす)と命名。

その後、大賀ハスとの交配が行われ、1966年(昭和41年)に薄黄色、弁の縁は淡い紅色で、大賀ハスと王子蓮の両方の花色がみごとに調和した花が開花しました。この優美で艶やかな花の様子から美智子妃殿下の美しい容姿を重ね合わせ、東洋的な名前の「舞妃蓮」と命名したと伝えられています。

★中日友誼蓮(ちゅうにちゆうぎれん)



▲千葉市内の「みなと公園」にて2012年撮影

1963年(昭和38年)、「蓮平和象徵也」と書かれた大賀博士の墨書と大賀ハスの実100粒が中国科学院院長・郭沫若氏に贈られました。この実は、北京、杭州、武漢など中国内の10カ所で栽培され、大輪の花を咲かせました。中国科学院武漢植物園では中国古代蓮と交配させ、この「中日友誼蓮」という品種を誕生させました。

この蓮には、花径28センチメートル前後の大きい品種と24センチメートル前後のやや小さい品種がありますが、いずれも花色は紅色で、花弁数は22枚前後です。

「舞妃蓮」と「中日友誼蓮」の花は、毎年7月中旬から8月上旬に千葉市役所前の「みなと公園」で観ることができます。

大賀ハスのあれこれ…Q&A

♡ハス池の1年の移り変わりは?

4月中旬になると、水面には浮葉が現れ、5月上旬には立葉が芽を出し、5月下旬には花蕾が立ち上がります。6月中旬頃から花が咲き始め、6月下旬から7月上旬には開花の最盛期を迎え、8月中旬には花が終わります。11月になると立葉が枯れ始め下旬には刈り取ります。翌年3月上旬には蓮根を掘り上げ、植え替えを行います。(3年に1回)



▲浮葉(銭葉)



▲元気いっぱい立葉



▲掘りあげた蓮根

♡ハスの花を見るのに最適な時間は?

花の色や姿が一番美しいのは開花から2日目。早朝から咲き始めて午前7時～9時には満開になります。午前9時頃になるともう閉じ始め、昼前には完全に閉じてしまうので、早朝～9時の鑑賞がお薦めです。曇りの日の方が花は長い時間楽しめますが、晴れの日の方が色が鮮やかです。

♡花びらが散った後の果托はどうするの?

花の中心部にある花托は、花が散ると生長しながら果托に変化しますが、他のハスと交雑しないように、実を結んで池に落下する前に刈り取ります。



▲ハスの未熟な花托

♡大賀ハスは食べられるの?

もちろん食べられます。でも、現在、私たちが食べている中国種のふつくらとした太い蓮根のシャキシャキした食感とは違います。スリリと細長い在来種としての大賀ハスは粘りがあり、もっちり、なっとりという食感です。



▲大賀ハスのキンピラの試作品
(市販はしておりません)



▲上:大賀ハスの蓮根
下:一般の蓮根

ちはなちゃんグルメ

◎ちはなちゃんどらやき

1個……………¥180(税込)



千葉駅から続く富士見本通りにある老舗の和菓子店。昭和13年の創業以来一貫して「手作り」にこだわってきた店が誇るどらやきをアレンジして「ちはなちゃん」の焼き印のあるオリジナル商品を開発しました。しっとりした落花生風味の生地に手練りのつぶあんが絶妙です。

有限会社 虎屋

千葉市中央区富士見2-12-1
TEL.043-222-2469

◎ちはなちゃん最中

1個……………¥147(税込)



伝統的な和菓子を基本にしながらも、常に新しい挑戦にも取り組んでいきたいという榎家さんは、現在4代目が腕を振っています。ハスの花に由来する「ちはなちゃん」にちなんで創ったのは、つぶしあんの中に入っているハスの実が香ばしい風味豊かな最中です。

御菓子司 榎家

千葉市中央区中央1-10-6
TEL.043-222-1047

◎ちはなちゃんパフェ

……………¥350(税込)



千葉公園内の綿打池(わとうちいけ)を見渡す絶好のロケーションにあるカフェは、散策の後に立ち寄りたいた寛ぎの特等席。チョコソースとバナナのバランスが良く、カルシウムせんべいが程よいアクセントになっているパフェは、これからの季節、さらに美味しい冷たいデザートです。

カフェ・ハーモニー

千葉公園内 TEL.080-4940-2525
【営業時間】9:30～16:30
(定休日:月曜日)



知ってる?

知らない?



●大賀ハス インフォメーション!



"ちはなちゃん"は、千葉市が推進する「花のあふれるまちづくり」のシンボルキャラクターです!

千葉市の花「オオガハス」の妖精をイメージして誕生した愛らしい"ちはなちゃん"。誕生日は11月21日で千葉公園のハス池に住んでいます。市の各種ポスターや市の公用車に印刷されていたり、イベントでは着ぐるみの"ちはなちゃん"に会えるかも! 見かけたら手を振ってくださいね。



▲千葉公園内「蓮華亭」で来客者を出迎えている「ちはなちゃん人形」

毎年恒例の観察会

千葉公園・大賀ハスを観る会

去年は、7,000人を超える来場者でにぎわった人気のイベント。大賀ハスに関する講演や観察会のほか、楽器演奏やちはなちゃんとの記念撮影など楽しい企画が今年も盛りだくさんに用意されています。



▲千葉公園人気の夏の風物詩



▲象鼻杯体験に集う人々

●日 時/2013年7月6日(土) 8:00～11:00(予定)

●場 所/千葉公園「蓮華亭」ハス池

※象鼻杯:ハスの葉にお酒などの飲み物を注ぎ、反対側の茎の切り口から葉に注いだ飲み物を飲むこと。中国古代に暑さをしのぐための飲酒法として行われたのが起源。

●千葉公園の早朝開放とガイド説明会開催

千葉公園では、大賀ハスの開花時期に合わせ、朝早い時間に咲くハスを楽しんでもらいたいと公園の早朝開放を行っています。また期間中の日曜日には、ガイドボランティアの方の説明を聞きながらハスの鑑賞をすることができます。ぜひ、お出かけください。

●期 間/2013年6月15日～7月7日

●時 間/早朝開放:午前6時～

●ガイド案内/2013年6月22日～7月7日

午前8時45分～午前9時45分頃まで

●問い合わせ/043-251-5103

(中央・稲毛公園緑地事務所)



▲ガイド説明会